

山岳遭難と事故を防ぐ登山者5Gナビゲーション

提案者名 (株)ケーブルテレビ富山

連絡先 076-444-5555

■具体的なアイデアの内容

- ①登山者が持つモバイルデバイス(サングラス型または腕時計型)に登山ルートや危険箇所の情報を送る、5G対応の端末をコース上に複数箇所埋め込む。
- ②登山の際、「劔岳山頂」など目的地をデバイスに入力(スマホまたは音声で)すると分岐点に差し掛かったときにデバイスに映像が送られ、進むべき方向が音声とともに示される。山頂までの距離と所要時間などの情報も提供される。落石の少ない安全な休憩場所も表示される。
- ③デバイスは心拍数や発汗量も測定し、水分や塩分補給を警告する。
- ④高度なGPS機能によって1秒間に3メートル以上、位置情報が下降した場合は「滑落の可能性あり」として富山県警山岳警備隊や山小屋関係者などをつくる遭難対策協議会にメッセージが届き、所定時間内に「No problem」など画面上のアイコンにタッチするなどの反応がなければ「意識不明の可能性あり」として、異常のあった地点の位置情報が一斉通知される。同様のシステムを利用している付近の登山者にも通知が届く。
- ⑤実際に遭難していた場合、デバイスによって意識レベルや脈拍の異常が検知されると、ただちに山岳警備隊に通知され、救助活動を始める。



■課題解決への貢献

- ①中高年を中心に後を絶たない山岳遭難の防止につながる。
- ②多言語対応のシステムにすればインバウンドも呼び込むことができ、観光面での貢献は大きい。
- ③冬山を含め通年で運用することで、雪崩被害者の捜索や救出時間の短縮が期待される。
- ④小学生の立山登山でも、熱中症対策ツールとして活用できる。

